那須与一伝承館通信〈第12回〉

◎大乗妙典および厨子

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、大乗妙典および厨子を紹介します。

本品は、那須資明（芝山・一七六〇―一八三一）が書写した大乗妙典とそれを収める厨子で、那須家に伝来したものです。

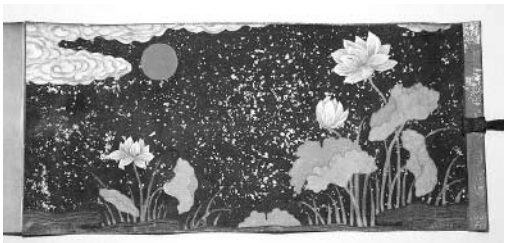
大乗妙典は長さ二十六メートルにも及ぶ長大な巻子で、見返しには日輪と紫雲の下に咲く蓮華が、鮮やかに描かれています。また、画面全体に切箔が押され、紺紙と切箔の絶妙なバランスにより、神秘的な雰囲気を醸し出しています。蓮は北宋の儒者宋茂叔の詩「愛蓮説」にもあるように、たとえ泥沼の中に生えていても、白く美しい花を咲かせることから、聖者の高潔さを表す花として、古来より多くの人々に親しまれてきました。

見返しの後には、「妙法蓮華経」が書き写されています。妙法蓮華経は法華経ともいい、比喩を交えながら法華一乗（声聞・縁覚・菩薩の段階を経て仏になること）の立場や永遠の生命としての仏陀を説いた経典です。

巻末には「文政七年庚申歳五月廿七日」「那芝山焚香敬写時年六十五歳印印」と記され、文政七年（一八二四）五月二十七日、資明が六十五歳の時に香を焚きながら写した経巻であるとわかります。おそらく資明は那須家の繁栄と安泰を願い、この経典を制作したのではないでしょうか。

現在、那須与一伝承館では、2月21日（火）まで本品を展示しています。この機会にぜひご覧ください。

■問い合わせ
那須与一伝承館
TEL（20）0220



上：大乗妙典　見返し

下：厨子（那須家所蔵）

彫刻周遊 ㉕

市内で作られた作品とその作者

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介します。

この作品は、ふれあいの丘のシャトー・エスポワールのすぐ南側の芝生広場に配置された３点１組の彫刻作品です。

まず最初に、森に向ってゆっくりと近づいていく２匹の大きな体の羊が目に留まります。一方、森の方では木立の陰から尾っぽの長い動物の後ろ姿が見えています。羊の到着を静かに待ち伏せするオオカミのようです。これからどうなるのでしょう。

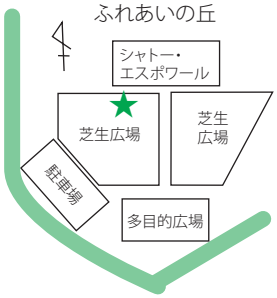
羊たちは森に消える　佐々木　至　2000年

佐々木 至 氏

作者は、「弱く愚かとさえ思われる羊の形を通して、それとは全く反対の無言の強さ、および時間の漂うような流れを表現したい」と言って作り上げた作品です。それをながめる私たちは、童話の世界の一場面でも見るように、どんな結末を迎えるのかワクワクする感覚に襲われます。

作者は、1956年長野県生まれの佐々木至氏。1984年多摩美術大学大学院彫刻専攻修了。二科展に毎年出品して多くの受賞歴があり、各地の彫刻シンポジウムにも参加。東京麻布十番の童謡「赤い靴」の女の子のモデルとなった「きみちゃん」の像の制作者でもあります。

設置場所案内図（★印）



■問い合わせ
文化振興課文化振興係　TEL（２３）８７１８